



独立行政法人国立病院機構 東徳島医療センター

〒779-0193 徳島県板野郡板野町大寺字大向1-1

TEL 088-672-1171 FAX 088-672-3809 URL <http://www.etokushima-mc.jp/> e-mail 515-KANRIKA@mail.hosp.go.jp

やさしい笑顔と よりそう医療



「ゆめ水族館」

主任保育士 福田 泰世

重症心身障害児(者)病棟では、初めての試みとして8月19日(月)～30日(日)の平日10日間、療育訓練棟にて「ゆめ水族館」を実施しました。午前と午後を設定された計3時間30分は参加自由。人工呼吸器を装着されている患者さんが看護師と一緒に参加されたり、ご家族が「また来たで」と何度も足を運んで下さったり、たくさんの患者さんに参加いただきました。「れんげ工房」で患者さんと一緒に制作したくらげとミラーボールの光がコラボした光とくらげの煌めきの世界(1)。魚釣りコーナーではクラフトで制作したペンギンがお出迎えしました(2)。癒しのスペースでは波のゆらぎのやさしいひかり

とアロマの香りに包まれ、皆さんゆったりくつろいでいました(3)。いろいろな変わった魚の画像展示&魚の漢字の読みにも挑戦してもらいました(4)。スクリーンではオーシャン・ダイナミックな海の世界が堪能できました。そして人気No.1だったのが氷のひんやりワールド(5)。栄養管理室のご協力のもと、大きく凍らせた氷とペンギンがハートをつかんでいました。初めて触った氷に驚いたり、笑顔になったり。。

ご好評いただきました「ゆめ水族館」、私達スタッフも今後ますます楽しみ♥です。

(1)



(4)



(3)



(5)



令和の時代

放射線科 手塚 美貴

徳仁天皇陛下が即位されて令和の時代が始まり、早半年が過ぎました。元号を書く時に「平成」の一画目である「一」を書いて、しまった!と思うことも減ってきました。

お代替わりに関係する儀式をテレビで目にした時には、皇室に対してほとんど知識がなかった私でも、背筋が伸びる思いがしました。

ところで、新天皇陛下はどんなお方でしょうか。お名前に“徳”の文字があります。これだけで徳島県人としては親しみが湧くといったら安直すぎるでしょうか。

陛下自身や陛下と直接関わりを持った方の本をいくつか拝読し、興味深いエピソードがありましたので、紹介させていただきます。ここではあえて親しみやすいものを選んでみました。

幼少時代の陛下のご教育係をされた浜尾実氏の「浩宮さま」では、“将来皇位をお継ぎになるお方”として“どんな境遇におかれても、その現実能耐えて人間らしい立派さをつらぬく強さをもっていたいただきたいこと”を基本的方針のひとつとし、浜尾氏が全人間をぶつけてこられた10年間がまとめられています。「宮さま」「オーちゃん」と呼びあって心を通わせたこと、初めてのお買い物で怪獣事典をお買いになったこと、初等科への徒歩通学など、ほほえましいエピソードがたくさん記載されていました。7歳時の浜松への「ひとり旅」では余談として、“興奮さめやらぬ宮さまはなかなかふとんの中にお入りにならないので、一計を案じて「宮さまがお寝みにならなければ私は先に失礼しますよ」と先に寝たふりをした。計画は成功したが、後日「浜尾さんはね、ぼくより先に寝てしまったんだよ」と報告されたので、おどろいた。実は寝たふりをしていただけだとお解りねがった。もちろん、宮さまも、そのことを承知でわざとそうおっしゃったのだろう。”とお茶目な一面があるところを紹介されていました。

オーストラリアからの留学生であったアンドルー・B・アークリー氏の「陛下、今日は何を話しましょう」では、学習院高等科での「地理研究会」での日々や“英語の話し相手”として御所で交流されていたことなどが記載されています。この方は、のちに徳島を舞台とした連続テレビ小説『なっちゃんの写真館』にドイツ人青年将校の役で出演されており、“陛下にニコニコしながら「ご活躍のようですね」とひやかし半分にほめていただいたのが、うれしいやら恥ずかしいやら。”と書かれており、陛下が日常テレビをご覧になっていることと徳島が結びついたことに驚きました。

英国オックスフォード大学への2年間の留学生生活をまとめられた「テムズとともに」では、コインがたまった重い財布からいっぺんにこぼれ落ち、“私は大いに慌てた”という陛下ならではの出来事の描写やご感想、ご学友からエリザベス女王陛下まで様々な人々との交流、スポーツ、芸術活動、研究生活等、多岐にわたってお書きになっています。“先生の講義をその場ですべて理解することは私の語学のレベルからいってまだ難しかったので、先生の許可を得てテープ・レコーダーを持ち込み、自室で講義の内容を復習した。時間はかかったが、講義の理

解は深まり、研究の上でも参考になった”と勉学や研究にお励みになられたことも淡々とお書きになっており、研鑽を積むことが陛下の日常となっていることをうかがうことができました。

さらに陛下の講演の記録を収録した「水運史から世界の水へ」では、“水災害とその歴史”の章において、『太平記』にも記載されている正平16(1361)年に起きた地震で、阿波の雪(由岐)の湊での被害について紹介されており、この時の津波犠牲者供養塔である康歴碑を、現存する日本最古のものとして紹介され、陛下が実際に平成30年に徳島県美波町(旧由岐町)を“訪れ”、“見聞してきました。”とお書きになっています。ここでも、陛下のご専門と徳島に少なからず繋がりがあることに驚きました。

天皇は日本国の象徴であり、日本国民統合の象徴と規定されています。アークリー氏が記述されている“茶目っ気があったり、意外に大胆だったり、近頃の陛下からは想像できない一面を国民が知らないのはもったいないことだと思うのです。”という考えに賛同し、記事のテーマとしました。

今上陛下を象徴とする令和の時代が、平和で安心して生活できる時代であり、長く続くことを願っています。



糖尿病教室の

ごあんない



当院に通院されている方ならどなたでもご参加頂けます。
(ご家族の方も一緒にお話をお聞き頂けます。)

申込用紙は内科受付横のマガジンラックにあります。

【日時】 2019年11月12日(火) 午前11時～午後2時

【場所】 第1会議室(2階)

【内容】 『バナナ1本2000m!!』

～摂取エネルギーと消費エネルギー～

管理栄養士

『聞いて、見て、やってみて知ろう』

糖尿病の運動について

理学療法士

※試食会(460円/材料費込) 筆記用具をお持ちください

四国大学連が来たよ！

去る令和元年9月12日、今年も四国大学連20名のみなさまが来て下さいました。これは、入院されている患者さんに、入院生活のリフレッシュと、季節感を感じていただくために去年から開催されています。

本来は8月の阿波踊り本番の時に予定しておりましたが、台風10号の影響で9月に延期となりました。

今回で2回目の阿波踊りを待ちわびた患者さんの待つリハビリテーション室から始まりました。こちらでは、様々な演出で形態を変えて、躍動感溢れる踊りをみせて下さいました。患者さん、ご家族のみなさんが「待ちました！」とばかりに手拍子を打ち、それぞれに楽しんでいただけたようでした。

続いて、重症心身障害児(者)病棟へ。鳴り物のセッティングが済み、鐘の音の合図と「ヤットサー！」の威勢の良

いかけ声とともに踊りが始まると、溢れんばかりの笑顔で廊下を練り歩く四国大学連！！病棟は一瞬で演舞場と化しました。

学生たちの笑顔にこたえるように、患者さんやご家族のみなさん、スタッフも手拍子を打ったり、鳴り物のリズムにあわせ、手が自然と動き出していました。手を振ったり、リズムに乗って体を大きく動かしたり、患者さんの笑顔は普段にも増して輝いていたようです。

また、法被を着ている患者さんもいらっちゃって、この阿波踊りが夏の行事に定着したようでした。

全力で汗だくになりながら熱い踊りを披露してくださった四国大学連の皆さん。私たちも去年の教訓（休憩なしで踊り続け、疲労困憊にさせてしまった）を生かし、病棟ごとに小休止を入れながら、三つの病棟を回って下さいました。

一糸乱れぬ演舞を披露してくださった、四国大学連のみなさま、今年もありがとうございました。

(管理課/日下 春美)

